

講義科目名（コース名）	物権法Ⅰ 債権法Ⅰ
名前	上杉 めぐみ

Moodle を講義で利用するようになったきっかけは、名古屋情報センターの方から「使い勝手がよいし、わからなければいつでも教えます」と勧められたからである。では半期試験的に利用しようと思い、Moodle を使用することとしたが、センターの方に懇切丁寧に教えていただけたおかげと、受講生の Moodle 認知度が高いおかげで、前期を振り返ると思いのほか利用勝手がよかったという印象であった。

利用したのは、2 年生対象の「物権法Ⅰ」と 3 年生対象の「債権法Ⅰ」で、いずれも 300 人を超える大講義の授業であったが、Moodle を利用したことによって、次のような利点があった。まず、教員側の利点としては、①レジュメを配布する時間を必要としないので、すぐに講義を始められる。②Moodle からレジュメを入手できるので、欠席した受講生のためにレジュメを長期間保管しておく必要がない。③レジュメだけ欲しい受講生は講義に来なくなるので、講義中の私語対策に役立つ。④こちらで印刷の準備をする場合、履修者分の印刷をしなければならないが、Moodle の利用により受講生が各自で印刷するので、講義後余部を処分する必要がなく、環境にやさしい。受講生側からは、⑤講義で使ったパワーポイントを講義終了後に掲載してくれる

ことで、それをもとに自分で復習ができたという意見を聞いた。

難点は、レジュメを少なくとも 2 日前までには掲載しなければ、学生からクレームが多く寄せられるということである。現代の学生は何かと忙しいようで、前日のお昼に掲載しても、それでは印刷をする時間が採れないからもっと早くしろという意見が多数寄せられた。この理由には賛同できないが、早く掲載すれば学生が予習する時間をしっかり確保できることになるので、後期は早めに掲載することを心掛けようと思う。

もう 1 点は、Moodle から印刷し忘れた受講生が、講義開始後 10 分ほど出入りをするので、しっかり授業を聞きたい学生は、その出入りが気になったと言っている。

Moodle の機能を最大限に活かせば、受講生は事前にレジュメを取得できるので、各自がじっくりと予習したうえで授業に臨むことができ、こちらとしてもしっかり予習してきた受講生に合わせて講義を展開することが可能となるだろう（実際、後期の講義では予習してきている学生が講義前に質問にくるということがあり、この実現性は高いと思っている。）。こうした教育効果の実現に向けて、今後も Moodle を利用していきたいと思う。